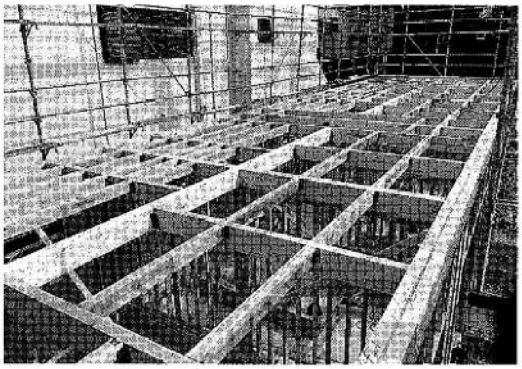
ソフト・ハード両面で合理化

Union Frameは仕様書完成

ウイング



Union Frameの床組み

ウイング（東京都、　郡）、東北工場（仙台西岡辺地域への基盤として全国展開を進めるとともに、スケールメリットを生かした資材調達の合理化などを図る。

倉田俊行社長）は白井市）の3工場で月間2工場（千葉県白井市）、万坪の加工能力を持つ。5月に関西ウイング（大阪福岡工場（福岡県粕屋市）をグループ化したことで、グループ全体の加工能力は子会社の北関東ウイング（茨城県筑西市）を加えた3社で2万5000坪超の規模となった。北陸を含めた関西圏の合理化構造設計法の確立に取り組んでいた「Union Frame（ユニオン・フレーム）」は仕様書及び設計・技術資料が完成。一般の建築士やビルダーでも取り組みやすい体制が整った。

「2×4工法床構面開発事業」として今年のウッドデザイン賞（技術・研究分野）を受賞。国産材を利用できることで、SPF高騰の折、普及に弾みが付きそうだ。

取り組みを始めて1年強で、取引先による累計建築実績は30棟。今後の計画を含めると70棟に上る。従来は設計できる人材が限られたが、仕様書の完成で一般の建築士でも設計できるようになれば、加速度的に広がる可能性もある。

国産材利用の推進にも以前から力を入れており、国土交通省の地域型住宅グリーン化事業のほか、ユニオン・フレームでの実績も増えており、使用量は年々増加している。今後も国産材を採用するメーカーとともにさらなる普及を目指す。

業務の効率化では、ソーの加工範囲が広がったほか、見積もり積算も簡易にできるようになった。

共同で開発に取り組むコンピュータシステム研究所の住宅プレゼンCAD「ALTA」、SHFの構造CAD「さくっと2×4」との連動が実践運用段階となり、3次元カット及び合板加工機、まぐさ加工機を導入し、合わせ柱、まぐさを全面的に機械化した。

設備投資も実施し、2020年5月期は白井工場にマルチアングルカットソーの3基目

受注は7、8月を底に回復基調にあり、4、5月に懸念された秋以降の2番底は免れたと見ている。